



今のあなたを認め、受け入れる学校 「白石きぼう学園」が開校



一人一人の気持ちを確認しながら、 自分のペースで学べる環境を

子どもたちが家族と相談し、自らの意志で「この学校で学びたい」と思ってくれたこと、大変うれしく思います。本校は、「新たな学びの場」として開校しました。特別な教育課程を編成し、少人数や個別の形態で学びを進めていきます。

特別な学びのポイントは3点です。一つ目に一人一人の学習状況に合わせて、「学び直し」や「苦手意識」に対応していく「白石タイム」を新設します。二つ目に学校内外での体験活動を重視し、子どもたちの興味・関心に合わせ、地域や企業の皆さんの力をいただきながら、人との関わりを大切に活動を取り入れていきます。三つ目に子どもたちの自分のペースを尊重し、登校時

間は9時20分。午前3時間、午後2時間の授業、別室や図書ブースでのクールダウンを可能としています。

子どもたちが「この学校があつてよかった」、「この学校に来てよかった」、「この学校に通えてよかった」と思ってもらえるよう、一人一人に合ったケアを行い、個人のペースを大切に活動を進めていきます。「子どもたちの思いを聞く」、「子どもたちの思いを受け止める」ところからのスタートだと思っています。学校教育の場をできるだけ多様で柔らかな形にして、子どもたちの学びを共に作り上げていきます。本校のコンセプト「学校らしくない学校」をどうぞ見守っていただきたいと思います。



白石南小学校・白石南中学校
我妻 聡美 校長



▲授業中の気分転換としても活用できる図書ブース

4月6日、白石市立白石南小学校（通称「白石きぼう学園」）の開校式を行いました。この日は、教育委員会や学校関係者、越河・斎川地区の自治会長など約100人が出席。式では、山田市長が「子どもたちが自分の良さや特徴に気づき、社会的自立に向かう学校として、一人一人の学びのペースの尊重や学び直しの時間を確保し、家庭や地域、企業などと連携した教育活動を推進していきます」とあいさつ。半沢教育長は「本校は子どもたちの実態に即した柔軟な指導、支援ができる学校であり、悩みを抱える保護者を支援していくことも重要な役割であります。」



1

本校は開校することが目的ではなく、ここからがスタートです。子どもたちの学びの保障と社会的自立に結びつけることを目指した学校にしていきたい」と述べました。

入学者は、本市在住の小学生2人、中学生17人の計19人。4月10日からは授業が開始され、調理実習や興味・関心のある探究活動など、児童生徒の希望に合わせた体験学習が行われています。

白石きぼう学園は、「落ち着いて過ごせる居場所」、「認めてもらうこと」、「個別最適な学び」のこれら3点に重点を置き、子どもたちの未来や夢、希望をかなえる力を身に付けられるよう、全力でサポートしていきます。



2

1_新たな学校のスタートを祝った開校式 2_生き物とのふれあい学習を楽しむ児童たち

「白石みらい教育基金」を設立しました ～多くの企業や団体、地域の皆さまが支えています～

本市では、子どもたちが安心して教育を受けることができる環境整備の資金の財源に充てることを目的として、令和4年12月に「白石みらい教育基金」を設立しました。

基金は心理面や福祉面などのサポートを行う

支援員の人件費、教育環境充実のための施設整備費に充てる予定です。

不登校となっている児童生徒や保護者の不安を少しでも期待に変え、子どもたちの「みらい」を描くための基金として活用していきます。



▲3月20日に行われた寄付受納式で、感謝状を手に山田市長、半沢教育長と記念撮影する（左2人目から）蔵王リース株式会社平間宏樹代表取締役、株式会社白石倉庫太宰榮一代表取締役、株式会社オフィスコーポレーション仙台営業所浜梶直人所长

■白石みらい教育基金積立額	
企業・団体名	寄付額(千円)
公益財団法人上廣倫理財団	20,000
株式会社白石倉庫	500
蔵王リース株式会社	500
株式会社オフィスコーポレーション	50
白石市（積立金）	1,000
計	22,050

※令和5年3月31日現在